

事後評価報告書(日本－イスラエル研究交流)

1. 研究課題名：「匂い情報の受容識別の分子基盤」

2. 研究代表者名：

日本側： 福井大学医学部 特命教授 坂野 仁

相手側： Weizmann Institute Neurobiology Professor Noam Sobel

3. 総合評価： (B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

研究代表者は嗅覚生物学の世界的リーダーであり、遺伝子改変マウスを用いた嗅覚情報伝達処理の研究を進めた日本側研究グループと、ヒトの行動発動を中心に進めたイスラエル側研究グループの連携は、マウスとヒトの研究を相補する相乗効果の高い魅力的な研究といえる。

一方、個々には素晴らしい実績をあげているといえるものの、両グループの共著による原著論文や学会等における発表は認められず、本研究による連携が、どのような効果につながったかが、成果および報告書から明確に読み取ることができなかった。

(2)交流活動の評価について

研究交流進捗報告会やセミナーの機会に、日本側研究者3名がイスラエルに1週間程度滞在し、ワークショップ、シンポジウム参加のために、イスラエル側研究者5名が東京に10日程度滞在するなど、具体的な人的交流は実施されている。しかしながら、若手研究者をワイズマン研究所に派遣できなかったのは残念な点であったと考える。加えて、報告書からは、イスラエルとの連携であることの強み、二国間交流の利点を十分活かし切れていなかったようにも思われたため、その点についてより具体的な記述をして欲しかった。